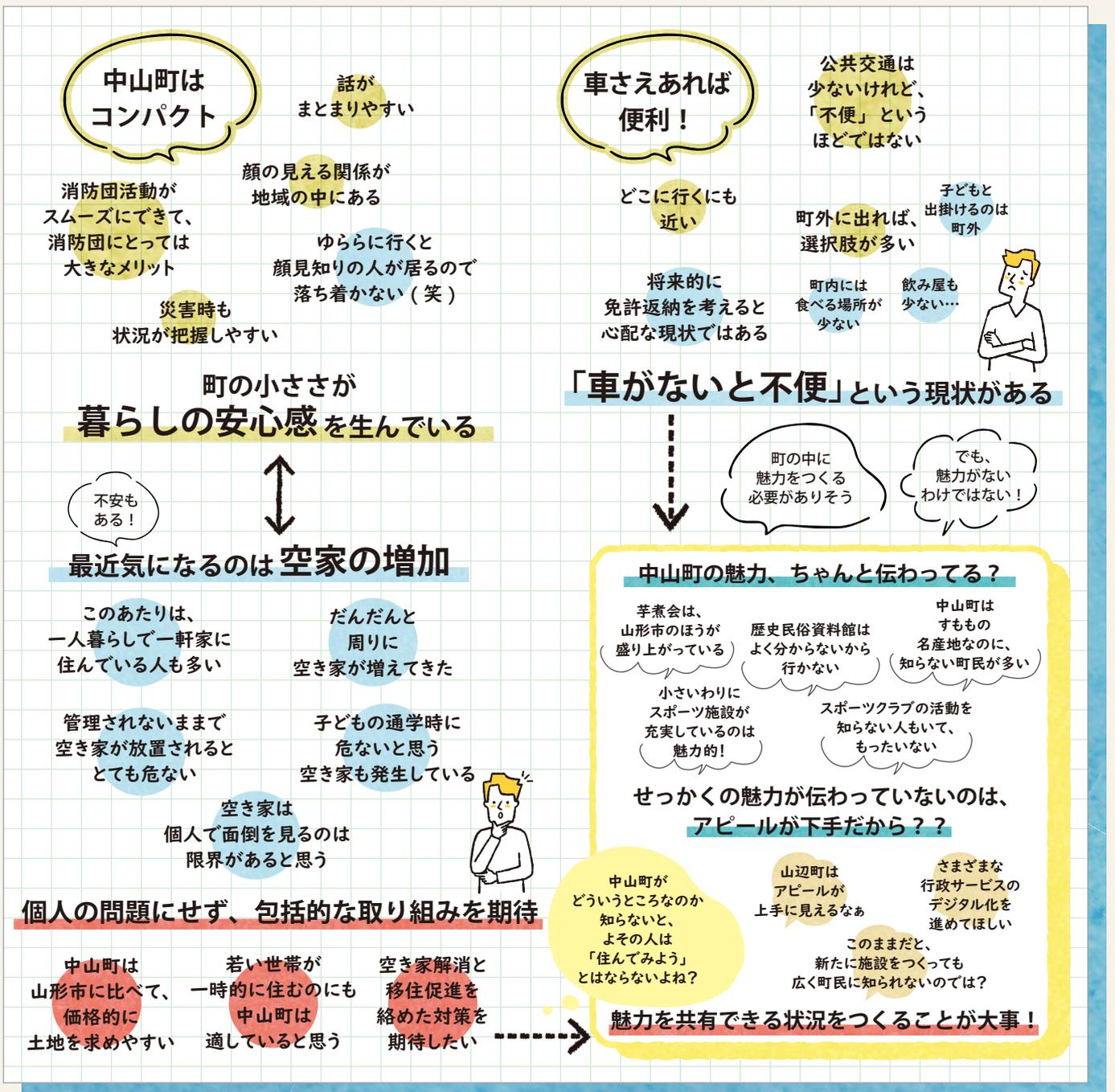


# 皆さんの「声」を聞かせてください！

## 中山町消防団の皆さんの話①

今回は、中山町消防団の方々にお集まりいただきました。子育てが一段落した皆さんから、これまでの暮らしの中で実感していることや改善点、そして消防団活動をとおして感じている課題等を語っていただき、さまざまな話題が出て盛り上がりました！まだまだ働き盛りの消防団世代ですが、周りに高齢世帯も増えてきて、気になることもあるようです。



## 1 コンパクトな町だからこそ安心が生まれる

中山町は、山形県で一番面積が小さい町(31.15 km<sup>2</sup>)です。このコンパクトさは、消防団の皆さんにとっては「状況が把握しやすい」「避難誘導や消火活動がスムーズにできる」とメリットが多いようです。また、地域コミュニティもまとまっていて「話がしやすい」「顔の見える関係があって安心」という声も聞かれました。また、「小さい町なのに、スポーツ施設が充実している」

「スポーツクラブでいろんな体験ができる」という点も暮らす上での満足度につながっているようでした。

商業施設等は「車があれば、町外にたくさんの選択肢がある」という話でした。しかしながら、「車が運転できるうちは」という条件付きのメリットであるため、町内での選択肢が限られていることに対する不満も垣間見えました。

## 2 増えてきた空き家への包括的な対策を

暮らしている中で「だんだんと空き家が増えてきた」「一人暮らしで一軒家に住む高齢者も多く、今後が心配」という声も聞かれました。実際、空き家になったまま長らく放置されている事例もあり、「個人や家族だけで対応するには限界がある。行政も一緒になって考える段階に来ているのでは」という意見が出ました。

中山町では、高校3年生までの医療費無償化

や小・中学校での給食費無償化等、子育て支援に力を入れています。こうした背景を踏まえて、「中心部での空き家対策として、子育て世代の移住者に積極的に空き家に住んでもらってはどうか」「中山町はどこにでも近いから、子育て世代にとっては暮らしやすい」等、若い世代の移住促進と空き家対策を絡めた課題解決に期待が寄せられました。

## 3 アピール下手?! 魅力の積極的発信に期待

「中山町はどこにでも近い」という利便性への評価は、「町の中には魅力がない」「町の外に出るしかない」という状況と表裏一体であることも明かされました。『芋煮会発祥の地』といっても、山形市のほうが盛り上がっている」「行政のイベント情報を知らない町民も多い」「歴史民俗資料館は近寄りがたい」等々、せっかくの魅力を伝えきれてないのではないかという意見も

多く、このようにアピールがうまくないままだと、「良い施設をつくったとしても、町民に伝わらずに利用者が限定されてしまう」という懸念があるという意見も出ました。

魅力も含めて、積極的に町の情報を発信していく体制を整え、町全体で「これから」を共有しながら考えていくことが、より良い施設の検討につながりそうです。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第6次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

©中山町「第6次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室（中山町大字長崎120番地／電話：023-662-4899）

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025年2月発行〉